

■マークとロゴタイプの意味？

マーク (mark)

一目で意味を伝える記号・しるし・標章・図案等のこと文字も図案化・装飾化した場合にはマークと呼ぶこともある表記が小さくても大きくしても目立ち伝える能力にたけてるもの

ロゴタイプ (logotype)

ロゴタイプは、図案化・装飾化された文字のこと
組織名・商号・商品名・雑誌名・書籍名などを印刷・表示に使う

ロゴマーク

日本: ロゴタイプとマークを組み合わせたものをロゴマーク
英語圏 : logomark は日本と違い、マークの意味
logoはlogotypeとlogomarkを組み合わせたもの

■ロゴ・マークとは？

人が顔を認識し親近感を持つように本協会にとってもロゴ・マークが「顔」と同じ役割を果たしますロゴ・マークは人の信頼感を得るためには欠かせない
大組織ほどロゴ・マークの効果を活用しています

■ロゴ・マークが今、組織に必要な理由は？

- 他協会との差別化を図るために
- 会員に愛されるために
- 良いイメージが直感的に伝わるように

本協会の会員が一つにまとまるためと対外的に協会の良い印象を持ってもらうためです

■より効果的なロゴ・マークにするために？

協会の質が高いと認められれば、ロゴ・マークが認知され協会自体に価値がつくようになります、ロゴ・マークを見ただけで信頼感を抱いてもらえるようになる
より効果的なロゴマークをつくるためには
「協会会員の思いが一つになる」「社会に対し広報媒体を使いアピール度アップする」

■人は文字よりも絵を素早く記憶する

人には写真や絵や人の顔など記憶し、ずっと忘れない特性があります人は企業や商品を選ぶ時、マークと良い印象を同時に記憶しますその後ロゴだけで「あのブランドだ」と反応しますそれは時間と共に良いイメージが定着し、信頼に繋がります
この協会会員の一人一人も意識して共有することでより活動意欲を高めたり、会員の良いモチベーションになると思います

■ロゴ・マーク制作のポイント

ロゴ・マークは、この協会を社会にアピールするために効果的なツールロゴ・マークが魅力的であれば、見る人は組織の良いイメージを視覚的に記憶する

■本協会で皆さんと考え制作する意味

1. 全会員どなたでも参加出来るロゴ・マーク制作委員会を作りそこで考え制作する
2. 今、ロゴ・マークは必要なくてもこれを進めることは会員（特に法関係者や知財関係者）の良いデザイン制作の経験となる
3. 協会としてどのようなロゴ・マークが相応しいか？ そのコンセプトと方向性を委員会で論議しそれをまとめる
4. デザイナーの選定はこの会で決めてその後に理事会の承認を得る
5. デザイナーへの依頼の仕方もこの会で決まった内容を共有し発注する
6. この共同作業はデザイナーと知財関係者との理解を深める良い機会になればと願います

■本協会がマーク、ロゴタイプを作る目的

1. 協会としての存在意義を内外に示し協会の存在価値を高める
2. 他の協会との差別化をはかり、この組織としての旗印をつくる
3. 広報活動（ホームページ、広報誌、名刺など）に積極的に使用することで協会のイメージの統一をはかる

■今後の委員会の進行

委員会の進め方として13名をA、Bグループに分けて議論し、デザイナーのリーダーが議論の結果をまとめ発表→委員全体での検討をする→これを委員会では繰り返す

- 1 イメージキーワードの抽出 ▶
- 2 イメージキーワードの分析から決定 ▶
- 3 方向性によるコンセプト案検討 ▶
- 4 コンセプトの決定 ▶
- 5 デザイナーの選定
- 6 デザイナーにコンセプト伝える ▶
- 7 ロゴ・マークラフデザイン案 ▶
- 8 ロゴ・マークデザインの絞り込み ▶
- 9 最終デザイン決定 ▶
- 10 商標登録の検討 ▶
- 11 ロゴマークの活用と展開

■本協会のイメージキーワード

本協会の過去、現在、未来のイメージを言語化する それがイメージキーワード

1. 日頃から思っている協会のことを短い言葉にする
2. 協会に対しての希望を短い言葉にする
3. 本協会の目的を短い言葉にする

会員からのイメージキーワード

1. デザインを法で守り、法を適切にデザインする。
 2. デザインを（法的な保護により）サステナブルな資産へ
 3. デザイン価値を継続的に向上させる長期的取り組み
 4. 対話
 5. 領域横断
 6. デザインと法のハイブリッドな挑戦
 7. 知的財産の未来へ誘うデザインコンサルジュ
 8. 新しい場づくりが協会のミッション
 9. 双方の得意分野を知り、互いがそこから交流を拡げる場
 10. （相乗効果）～新しい協会の価値創造を通じて、拡がる効果をつくる～
 11. 「デ」と「法」が分かるように入っているマークがいいと思います。★
 12. 未知なる可能性
 13. ストーンヘッジは可能性・創造性を高める象徴
 14. 豊富な知性領域をもつ両者が情熱をもって交流すること
 15. パラダイム変換とデザイナーの新たな活動領域
 16. 投資の保護から本来の創作の保護へ・・・創造立国
 17. 多様な知財戦略ビジネスモデル
 18. 産業の主軸変化にふさわしい制度
 19. 異質なものどうしの調和（融合ではない）
 20. 特許庁や弁理士会のような意味訴求的なマークではなく、
感覚訴求的なマークがよい★
 21. マークに馴染むようなロゴタイプがあるとよい★
 22. アットホーム
- ★は具体的な希望

■ロゴ・マーク制作委員会の進め方の詳細

1. イメージキーワードの抽出

会員各々が持っている JADELA のイメージ
(過去、現在、未来) の文字による可視化

2. イメージキーワードの分析

キーワードを分析して方向性を示唆

3. 方向性を決めコンセプト案を提示

方向性により複数のコンセプトを提示

4. コンセプトの決定

今後の協会のあるべき姿を元に仕様を決める (ブランディング案)

5. デザイナー、デザイナー役にコンセプト伝える

コンセプトをベースとしたアイデアを出す ※先願調査

6. ロゴ・マークデザイン案 (ラフアイデア) 検討会

出て来たデザイン案を分析 (コンセプトとの整合性の確認)

7. ロゴ・マークデザインの絞り込み

2~3案に絞りながら展開も提示

8. 最終デザイン決定

理事会に最終デザインのプレゼンテーション

9. 商標登録申請

デザイナー、デザイナー役に体験させたい

10. ロゴマークの仕様の検討

様々な媒体への展開の検討